

## 1 自己評価及び外部評価結果

### 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4093000059		
法人名	株式会社 ユニマットそよ風		
事業所名	二日市温泉長寿苑 そよ風		
所在地	〒818-0052 福岡県筑紫野市武蔵1-1-24	092-922-6952	
自己評価作成日	平成24年6月25日	評価結果確定日	平成24年07月26日

### 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

入居者・家族が安心して豊かに生活頂ける様に、スタッフ全員が尊厳と傾聴に心がけ気持ちに沿った介護を日々実践し様々な支援にあたっている。医療面でもかかりつけ医・訪問看護・訪問歯科など充実している。様々なイベント(イチゴ狩り・バーベキューご馳走の日)も開催し、今後はもっとご家族が参加頂く回数を徐々に増やしていく予定。地域とも交流をもち、お互いの行事等に参加して繋がりを深めている。これにより、災害時の対応で地域と事業所が一体になって対応することが可能となった。

### 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

「二日市温泉長寿苑 そよ風」は、山の緑と季節の花に囲まれ、有料老人ホーム、ショートステイ、デイサービス併設のグループホームである。ホーム独自の理念を掲げ、管理者と職員は、利用者や家族の心配事、悩み、希望を丁寧に聴きながら、利用者一人ひとりに合わせた介護サービスの提供を心掛け、家族の評価は高いものがある。主治医による、受診と往診は、職員の見守りと、的確な判断で、利用者の状態変化に対応し、24時間、安心出来る健康管理体制が確立されている。地域の、清掃活動や、防犯パトロール、生き生きサロンに参加し、法人全体の花見会、夏祭り、餅つきに、家族や地域住民を招待し、活発な交流が始まっている。また、温泉が湧き出るお風呂は、利用者の楽しみであり、毎日入浴される利用者もいて、一日一日を充実した暮らしになるよう工夫を重ねている。

事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaiqokouhyou.jp/kaiqosip/Top.do?PCD=40">http://www.kaiqokouhyou.jp/kaiqosip/Top.do?PCD=40</a>
----------	---

### 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 北九州シーダブル協会		
所在地	福岡県北九州市小倉北区真鶴2丁目5-27	093-582-0294	
訪問調査日	平成 24年07月06日		

### ・サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) 項目 1~57で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 該当するものに印	項目	取り組みの成果 該当するものに印
58 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を 掴んでいる (参考項目:23,24,25)	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	65 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求 めていることをよく聴いており、信頼関係ができてい る (参考項目:9,10,19)	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
59 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面が ある (参考項目:18,38)	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	66 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域 の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
60 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係 者とのつながりが拡がり深まり、事業所の理 解者や応援者が増えている (参考項目:4)	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
61 利用者は、職員が支援することで生き生きした表 情や姿がみられている (参考項目:36,37)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員は、生き生きと働いている (参考項目:11,12)	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	69 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足 していると思う	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
63 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく 過ごしている (参考項目:30,31)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	70 職員から見て、利用者の家族等はサービスにお おむね満足していると思う	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
64 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な 支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

(セル内の改行は、(Alt+ ) + (Enter+ )です。)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>理念に基づく運営</b>					
1	1	理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所独自の理念を掲げ、いつも朝礼時唱和し職員に意識づけている。 ミーティングの際、理念に沿った個人ケアについて話し合いを行なっている。	「あせらず、ゆっくり、あなたの自立を支援し、地域とのふれあいを大切にします」というホーム独自の理念を作り、毎日の朝礼や職員会議等で唱和し理解した上で、利用者一人ひとりの立場に立って介護サービスを実践している。	
2	2	事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自身が地域の一員として日常的に交流している	地域イベントや行事(サロン・防犯パトロール)に参加したり、運営推進会議における関係者(区長・市職員等)の意見を反映している。 また、近隣の小中学校のボランティアを定期的に受入れている。	地域清掃、防犯パトロール、大門地区サロン等への参加や、法人全体で行う花見会、夏祭り、餅つきに地域住民が参加する等、活発な交流が始まっている。また、小、中学校の体験学習、ボランティアの受け入れや、隣接保育園児の来訪等では、利用者の生き生きとした姿を見る事が出来る。	
3		事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議・イベントなど地域事業所との相互協力、参加等を通じて認知症の方への支援方法を含むアプローチを模索し、今後に向け努力している。		
4	3	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1度開催している。 ご家族・区長・民生委員・老人会・市役所・地域包括・同業者の管理者に参加を頂き、意見・要望等を反映させている。 今後、警察署・消防署等にも参加依頼予定。	会議は、2ヶ月毎に開催し、ホームの現状、行事、課題等を報告し、各委員から質問や情報等が出され、活発な意見交換の場となっている。また、出された意見をホーム運営に反映させる取り組みがある。参加委員の拡充や、内容の更なる充実に向けて検討中である。	
5	4	市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市役所へこまめに連絡をとっている。 他にも運営体制の事について地域包括へ定期的に足を運び、状況報告や相談をすることで、より良い協力関係を築くよう図っている。	運営推進会議に、行政職員や包括支援センター職員が参加し、ホームの現状を理解してもらっている。また、行政担当窓口と常に連絡を取り、情報交換を行なう等、協力関係を築いている。	
6	5	身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束・虐待防止委員会を設け月に1度、事例検討会を実施しを行なっている。 入居者の様子・所在を確認しながら安全面を配慮し、自由な暮らしを支援している。	身体拘束マニュアルを整備し、委員会を設け、事例検討会を実施している。玄関の自動ドアは手動で開けるようにし、各ユニットの施錠については、利用者の安全を第一に考え、現在検討中である。	
7		虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	身体拘束・虐待防止委員会を設け、月に1度事例検討会を実施している。 管理者が介護業務に入り入居者の身体チェックを行なうことで、虐待防止並び早期発見に努める。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8	6	権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	自立支援事業や成年後見制度についての研修を受講し、資料等を職員全員に周知を図っている。また、玄関入口にパンフレットを設置し職員だけでなく、ご家族並び見学者まで幅広く情報提供を行なっている。	現在該当者がいる。資料やパンフレットを用意し、研修で学び、職員全員が制度を理解し、利用者や家族が制度を必要とした時に、いつでも説明できる体制を整えている。	
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約締結・解約はご家族が納得されるまで時間を設け、十分な説明を行う。また改定等に関しては同意書を作成し、十分な説明を行なった上で、署名捺印を頂いている。		
10	7	運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議を2ヶ月に1度家族代表者に参加頂き、ご意見、要望等を運営に反映できるように努める。 また、家族会も年2回開催。 今後、ご家族が参加できる会を増やす予定。	家族からの意見、要望を「宝」と認識し、玄関入口に「お宝箱」を設置している。また、パーベキュー等、食事を兼ねた家族会を年に2回開催し、家族同士の悩みや心配事を話し合い、意見、要望を聴き取る絶好の機会となっている。	
11	8	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	運営会議を月1度開催。職員全員で検討し反映している。 管理者は職員と個別に時間設け、職員の意見を聞いている。	職員会議を毎月開催し、職員の意見、提案、心配事等を聴き出し、出された意見を検討し、反映させる努力をしている。また、管理者は、職員と個別に面談する機会をつくり、信頼関係の構築に努めている。	
12		就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員と条件や職員環境に関し、個別面談を設け改善に努めている。 また、やりがいや介助方法等の助言や指導を行なっている。		
13	9	人権尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している	職員の募集・採用に関して年齢・性別は問わない。現在20代から70代の職員が勤務している。また職員は得意とするもので伸び伸びと勤務していけるように配慮している。	職員の採用は、年齢や性別、経験や資格にこだわらず、人柄や、やる気を優先している。また、ロッカーや更衣室、休憩場所を確保し、リフレッシュしながら生き生きと働ける環境を目指し、実践に向けて取り組んでいる。	
14	10	人権教育・啓発活動 法人代表及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	施設内の全体会議や部署会議を通じ入居者・職員に思いやりのある丁寧な言葉使いを心がけている。又、必要に応じ管理者から職員へ適時指導を行い人権教育、啓発活動に取り組む。	職員会議や毎日のミーティング時に、利用者の尊厳を守るケアについて細かな事まで話し合い、職員間で共通理解し、実践に向けて取り組んでいる。	
15		職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	採用時に研修期間を設けて技量や知識を把握し、一定のレベルまで引き上げる。 また、スキルアップ委員会を月1度開催し、働きながら知識・技術向上を高める機会を設ける。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		<p>同業者との交流を通じた向上</p> <p>代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>他事業所2ヶ所と相互に運営推進会議を出席し、意見交換を行い、他事業所との訪問活動を通じサービスの向上を図っている。</p>		
<b>安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
17		<p>初期に築く本人との信頼関係</p> <p>サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている</p>	<p>入居前に本人、ご家族やケアマネジャーやソーシャルワーカーといった諸関係の担当者から可能な限り収集を行う。又入居後も本人・家族から適時困っていること、不安なことを傾聴し対応している。</p>		
18		<p>初期に築く家族等との信頼関係</p> <p>サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている</p>	<p>入居前に本人、ご家族やケアマネジャーやソーシャルワーカーといった諸関係の担当者から可能な限り収集を行う。又入居後も本人・家族から適時困っていること、不安なことを傾聴し対応している。</p>		
19		<p>初期対応の見極めと支援</p> <p>サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている</p>	<p>入居前に体験入居を行い、正式な入居を受け入れる際の検討会議を開催し、その時必要とされる支援方法を見極め、その時に応じた柔軟な対応に努めている。</p>		
20		<p>本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている</p>	<p>日々の食事を共に食べたり、レクを共に楽しんでいる。畑仕事の手順や種植え時期を教わったり、調理や食器拭きなど一緒に出来る事は共に行い、一緒に生活をしている関係を築いている。</p>		
21		<p>本人を共に支えあう家族との関係</p> <p>職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている</p>	<p>イベントの際には家族に連絡を入れ共にイベントに参加頂いたり、日常の状況に変化が見られた時に迅速に家族へ連絡を入れ、利用者の状態を把握頂いている。又、些細な事でも密に連絡を入れるよう努めている。</p>		
22	11	<p>馴染みの人や場との関係継続の支援</p> <p>本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている</p>	<p>イベントの際には家族に連絡を入れ共にイベントに参加頂いたり、日常の状況に変化が見られた時に迅速に家族へ連絡し、利用者の状態を把握頂いている。又、些細な事でも密に連絡を入れるよう努めている。</p>	<p>併設の有料老人ホームやショートステイとの行き来で、知り合いの方との関係の継続を支援している。また、行きつけの美容院や病院、外食、買い物等、馴染みの関係継続を大切にした支援を行っている。</p>	
23		<p>利用者同士の関係の支援</p> <p>利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている</p>	<p>リビングにソファを置き、利用者同士で談笑し過ごす環境を設け、利用者同士の共通の好きなTV番組などを共に観たり、日々のレク等で利用者同士が関り合える支援を行っている。</p>		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
24		<p>関係を断ち切らない取組み</p> <p>サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている</p>	<p>病気等で長期入院となりサービス利用が終了となっても、継続的に見舞いを行い、又転居等で事業所を離れる事が決まっても必要に応じて手紙や電話など出来る限り支援を行っている。</p>		
<b>その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
25	12	<p>思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	<p>本人・家族から生活暦や趣味、要望等の情報を得ると共に散歩時に好み等を話題にしながら傾聴することで、思いや意向の把握に努めている。発語の少ない方は、表情や仕草等から思いの汲取りを行っている。</p>	<p>職員は、利用者が何をしたいのか、どこに行きたいのかを把握するために、利用者に寄り添いながら独り言を記録し、表情や仕草から汲み取り、さらに、アセスメントを読み返し、家族に相談しながら、利用者の意向の把握に取り組んでいる。</p>	
26		<p>これまでの暮らしの把握</p> <p>一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている</p>	<p>利用者個々の生活暦を入居前にご家族やケアマネジャーやソーシャルワーカーといった諸関係の担当者から可能な限り収集し、事業所での生活が始まってからもその都度新しい情報を把握するように努めている。</p>		
27		<p>暮らしの現状の把握</p> <p>一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている</p>	<p>各利用者における日々の状態や一日の過ごし方などを毎日の申送り時に報告、検討し、即時対応している。月に一度会議を設け、職員が感じ取った入居者の様子や介助方法を検討し、現状に即した支援を努めている。</p>		
28	13	<p>チームでつくる介護計画とモニタリング</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している</p>	<p>月1回の会議にて利用者の状況報告、ケア検討を行い、3ヶ月毎に本人・家族を交えた担当者会議を開催し医療等必要な関係者の意見を反映し現状に即した介護計画を作成している。</p>	<p>家族の面会時に合わせて、担当者会議を開催し、意見や要望を聴き、関係者で話し合い、介護計画を3ヶ月毎に作成している。また、状態変化に合わせて、家族や主治医と話し合いながらその都度介護計画の見直しを図っている。</p>	
29		<p>個別の記録と実践への反映</p> <p>日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている</p>	<p>日々の様子・介護実践と結果を細かく毎日、個人の介護記録に記録。特記事項を申し送りノートに反映させ、共有を図り、部署内の会議時に介護実践と計画の見直しを行っている。</p>		
30		<p>一人ひとりを支えるための事業所の多機能化</p> <p>本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる</p>	<p>利用者・家族の状況に応じて、訪問歯科・在宅マッサージ、往診可能な主治医といったその時に応じた柔軟なサービスの提供を行っている。</p>		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		<b>地域資源との協働</b> 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域主催のサロンへ毎月1度参加し、地域の方と共に時間を過ごし、食事を摂る事で利用者への生きがい作りを担っている。		
32	14	<b>かかりつけ医の受診支援</b> 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人・家族が希望するかかりつけ医を選択できるよう支援している。週1回の訪問看護による支援を受け、利用者各々のかかりつけ医と連携を取り異常の早期発見・症状の把握が図れるよう支援している。	利用者や家族の希望を優先し、かかりつけ医の受診支援を行っている。また、協力医療機関による隔週毎の往診と週1回の訪問看護により、24時間適切な医療を受けられる連携体制が確立されている。	
33		<b>看護職との協働</b> 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護師と24時間、365日連絡が取れ、適切な対応がとれるようにしている。日常での変化を報告・相談し看護師・担当医へ連絡を取り必要な対応を行っている。		
34		<b>入退院時の医療機関との協働</b> 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院の際、管理者ならび職員が必ず立会い、病院関係者との関係を築き、早期退院できるよう円滑な情報提供をその都度行っている。		
35	15	<b>重度化や終末期に向けた方針の共有と支援</b> 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	指針を作成し重度化、終末期について可能な限りホームで対応する事を家族に説明している。ただし、医学的管理の高い重度化について段階において家族、医師を含め話し合いを重ね入院等の支援を行っている。	「重度化した場合の対応・看取り対応に関する指針」を作成し、ホームで出来る事出来ない事を、利用者や家族に説明し、了承を得て、方針を共有しながら、重度化に向けた支援に取り組んでいる。	
36		<b>急変や事故発生時の備え</b> 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	事業所内で起こったヒヤリハットや事故について事例検討を行っている。また、全職員が救急救命講習を受講しており、救急時の応援体制も整えている。		
37	16	<b>災害対策</b> 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	災害訓練を年2回実施し、避難経路、避難場所、車椅子の方の避難方法を訓練時のみならず会議の中でも確認を行っている。地域の協力体制作りも取り組んでいる。	マニュアルを整備し、昼夜を想定した避難訓練を年2回実施し、併設施設からの職員応援体制の確立と、地域住民の協力を要請し、非常災害時に備えている。また、併設本部にて、非常災害時に備えた非常食、飲料水の備蓄も行っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
38	17	一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者への声かけや介助全般に一人ひとりの人格を尊重した対応を心がけている。記録や個人情報の書類等は鍵のかかる書棚に保管して漏洩防止や秘密保持を徹底している。	職員は、利用者一人ひとりのプライドや羞恥心に配慮した優しい声かけや、見守り、誘導等の支援を行っている。また、個人情報の書類等は人目に触れない鍵のかかる場所に保管し、面会ノートをカードに切り替える等、プライバシーに配慮している。	
39		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常生活を送る中で、常に入居者へ傾聴を心がける。思いや伝える事が難しい方へはアプローチ方法もその方に合った援助を行っている。		
40		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	おおまかな一日の流れはあるが、入居者の思いも優先にしている。リビングで他入居者と談話を楽しまれたり、自室で読書したりと、入居者一人ひとりのペースを尊重している。		
41		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	起床時、朝昼夕食後、入居者に応じた対応(化粧、口腔ケアなど含む身だしなみ)を行う。また必要に応じて理美容も行っている。		
42	18	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	畑で取れたトマトや胡瓜等季節に応じて、職員と利用者が一緒に食事を摂っている。又、目の前で握ってもらう寿司やバーベキュー、そうめん流しなどご馳走の日など行い、食器拭きなど一緒に準備・片付けをして頂いている。	利用者と職員が同じテーブルで、会話をしながらゆったりとした食事風景である。毎日温泉に入ってもらうために、昼食のみ厨房を利用している。月に一度の「ご馳走の日」、握り寿司、バーベキュー、そうめん流し等、食事を楽しむ事の出来るように工夫している。	
43		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	朝昼夕の食事の摂取量や水分量を一覧表を作成し、日々の量を把握している。また、食べる量や水分量が少ない方へ嗜好食にかえたり、摂りやすい形に変えたりと工夫し支援している。		
44		口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、全員へ口腔ケアを促し確認を行う。義歯の方へ夜間はボリデントに漬けるなど、個々に応じている。訪問歯科医が毎週歯の治療を行い、口腔状態の改善を図っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
45	1 9	排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	利用者個々の排泄パターン、日常生活の様子、失禁の状態等を把握することで、リハビリパンツから布パンツに移行したり、パットの使用量が軽減されるなど、自立に向けた支援を行っている。	職員は、利用者の排泄パターンや習慣を把握し、早めの声かけや誘導で、排泄の自立に向けた取り組みをしている。また、入居時、紙おむつを使用していた利用者が布パンツになる等の事例もあり、利用者の自信回復に繋げている。	
46		便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	各利用者の排便状況を日々把握しており、個々に応じて、ヨーグルトやヤクルト等の飲食物での工夫や、散歩など運動など支援している。		
47	2 0	入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	温泉がひいてあり、一日おきの午前中を入浴の基本としているが、希望があればいつでも入浴できる体制になっている。利用者の好みや行事としてバラ湯やゆず湯など季節感を味わえる入浴の支援を行っている。	自慢の温泉を楽しんでもらうために、職員一人ひとりが努力を重ね、いつでも入浴出来る体制である。菅蒲湯、柚子湯等、趣向を凝らし、浴室の広い窓からの眺めを楽しみながらの入浴を支援している。	
48		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個人の体調や気分によって自由に休んで頂き、今まで使っていたカーテンや寝具などを持参頂いて安心する空間作りに努め、心穏やかに眠れる様、不安なことなど傾聴の姿勢を保っている。		
49		服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	医師の意図や処方経緯等を理解するまで説明を受ける。服薬後の状態把握に努め、状況に応じ医師へ報告を行う。また、入居者への薬局を一元化し、不明な点や薬の把握が出来、医療面で協力頂いている。		
50		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	利用者の役割、嗜好品や楽しみごと把握しており、ご自身の居室清掃や菜園で野菜作り、季節を意識した生け花など四季折々の花見や果物狩り、工場見学等を企画し実行している。		
51	2 1	日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	その日の気分や天気に応じて、隣の公園や武蔵寺への散歩等戸外に出かける支援に努めている。ドライブや菌狩り等を出かけ、場所等に応じて家族に協力頂きながら支援している。本人の希望を取り入れ買物や外食等の個別支援も計画し実践している。	利用者の重度化が進み、日常的な散歩や戸外に出かける事が減少している中で、少しでも太陽の光を浴びて、風に当たり、季節を五感で感じてもらおう事を検討している。	戸外に出かけ、利用者が季節を五感で感じ取り、生き生きと過ごせるよう、利用者の目線に立ち、個別支援を含め、利用者一人ひとりに合わせた戸外に、出掛ける支援体制の構築が望まれる。



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
52		<p>お金の所持や使うことの支援</p> <p>職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している</p>	<p>入居者・家族の希望や能力またはお金への価値観に応じて、職員で支援方法を検討、入居者・家族と話し合い、お金についての支援を行う。</p>		
53		<p>電話や手紙の支援</p> <p>家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている</p>	<p>入居者の気持ちを第一とし、電話や手紙のやり取りができるように、ご家族へ支援について十分に説明し、理解頂いたうえで支援している。また、その時の状況等を含めた報告をご家族に行っている。</p>		
54	2.2	<p>居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>事業所内外は清潔感があるよう清掃を心がけ、空調と適度な採光で心地よく過せる季節感のある空間になるよう工夫している。又、対面式キッチンから調理の匂いと音が食欲をそそり、リビングには紫陽花の作品を飾り、生活感と季節感を味わって頂けるようにしている。</p>	<p>山の緑と庭の草花、桜の大木が取り囲む2階建て2階部分のグループホームは、2ユニットの特徴を活かした構造である。ホーム内は清潔で、季節の生花や作品が飾られ、穏やかに落ち着いた毎日過ごす事が出来る共用空間になっている。</p>	
55		<p>共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている</p>	<p>リビングにソファを設け、利用者同士で談笑し過ごして頂いたり、時に一人掛けのリクライニングソファで落ち着いて過して頂けるよう工夫している。</p>		
56	2.3	<p>居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>安心して居心地よく過ごせるよう家族と協議し、使い慣れた家具、寝具、テレビや家族写真などお気に入りの持ち込んで、居心地良く過ごせるようにしている。</p>	<p>居室は、利用者や家族と話し合いながら、自宅から馴染みの家具や小物、写真等を持ち込んでもらい、自宅で暮らすような雰囲気の中で、居心地の良い居室になるよう支援している。</p>	
57		<p>一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している</p>	<p>扉や自身で開閉できるような形状・重さにし居室やトイレなどの表示を大きくしている。又、トイレや居室の空間は広く使い勝手が良いように工夫している。</p>		